

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	研究科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホクセン カンセイガクイン 学校法人 関西学院							
フリガナ大学の名称	カンセイガクインダクダクガクイン 関西学院大学大学院 (Kwansei Gakuin University Graduate School)							
大学本部の位置	兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号							
大学の目的	<p>関西学院大学大学院は学部における一般的及び専門的教養の基礎の上に、専門の学科を教授研究し、深広な学識と研究能力とさらに進んで研究指導能力を養い、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、もって文化の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>修士課程は、広い視野に立って清深な学識を受け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。</p> <p>博士課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>少子高齢化やグローバル化等を背景にして、「人間と社会(環境)の交互作用」の中で生じ複雑化する社会福祉に関わる諸問題に対応すべく、より幅広い研究及び教育、そして社会への貢献といった諸側面から対応できる大学院教育・研究基盤として「人間福祉研究科人間福祉専攻」を設置する。</p> <p>人間福祉研究科の前期課程においては、研究者の養成に重点を置くが、現今の経済社会の要請に応えるため各分野で指導的役割を担える高度な専門的知識を持った人材養成のための教育も行う。後期課程は研究者養成を目的としている。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	関西学院大学大学院 博士課程前期課程 人間福祉研究科 [Graduate School of Human Welfare Studies] 人間福祉専攻 [Graduate Department of Human Welfare Studies]	年	人	年次人	人	修士 (人間福祉)	年 月 第 年次 平成20年 4月1日 第1,2年次	兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号
	計		8	-	16			
	関西学院大学大学院 博士課程後期課程 人間福祉研究科 [Graduate School of Human Welfare Studies] 人間福祉専攻 [Graduate Department of Human Welfare Studies]	年	人	年次人	人	博士 (人間福祉)	年 月 第 年次 平成20年 4月1日 第1,2,3年次	
計		5	-	15				
基礎となる学部等 人間福祉学部 社会福祉学科 社会起業学科 人間科学科								

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		①平成20年度より社会学部社会福祉学科 (△175) 募集停止 ②平成22年度より社会学部社会福祉学科 (3年次編入学定員△10) 募集停止 ③平成20年度より法学部法律学科 (+10)、政治学科(+20)、経済学部(+30)定員増 ④平成20年度人間福祉学部 (社会福祉学科 (+130)、社会起業学科 (+70)、人間科学科(+100)) 設置 ⑤平成20年度大学院博士課程前期課程社会学研究科社会福祉学専攻 (△6) 募集停止及び専攻の廃止 ⑥平成20年度大学院博士課程後期課程社会学研究科社会福祉学専攻 (△4) 募集停止及び専攻の廃止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実習	計					
	関西学院大学大学院 博士課程前期課程 人間福祉研究科 人間福祉専攻	18 科目	1 科目	1 科目	20 科目	34 単位				
	関西学院大学大学院 博士課程後期課程 人間福祉研究科 人間福祉専攻	1 科目	1 科目	0 科目	2 科目	14 単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員		
	新設	関西学院大学大学院 博士課程前期課程 人間福祉研究科 人間福祉専攻	人	人	人	人	人	人	既存研究科から移籍した教員数は、様式第2号 (その1) P. 8欄外に記載している。	
		計	15 (14)	7 (6)	0 (0)	0 (0)	22 (20)	0 (0)		2 (3)
	分	関西学院大学大学院 博士課程後期課程 人間福祉研究科 人間福祉専攻	人	人	人	人	人	人		
		計	7 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (6)	0 (0)		0 (1)

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
			人	人	人	人	人	人	
既	関西学院大学大学院 博士課程前期課程								
	神学研究科	神学専攻	7 (7)	4 (4)	— (—)	— (—)	11 (11)	— (—)	1 (1)
員	文学研究科	文化歴史学専攻	25 (25)	2 (2)	— (—)	— (—)	27 (27)	— (—)	29 (29)
		総合心理学専攻	15 (15)	3 (3)	— (—)	— (—)	18 (18)	— (—)	26 (26)
		文学言語学専攻	24 (24)	5 (5)	— (—)	— (—)	29 (29)	— (—)	21 (21)
組	社会学研究科	社会学専攻	22 (22)	— (—)	— (—)	— (—)	22 (22)	— (—)	14 (14)
	法学研究科	法学・政治学専攻	31 (31)	— (—)	— (—)	— (—)	31 (31)	— (—)	21 (21)
織	経済学研究科	経済学専攻	29 (29)	5 (5)	— (—)	— (—)	34 (34)	— (—)	3 (3)
	商学研究科	商学専攻	23 (23)	10 (10)	— (—)	— (—)	33 (33)	— (—)	9 (9)
の	理工学研究科	物理学専攻	14 (14)	4 (4)	— (—)	— (—)	18 (18)	— (—)	9 (9)
		化学専攻	8 (8)	2 (2)	2 (2)	— (—)	12 (12)	— (—)	8 (8)
		生命科学専攻	6 (6)	2 (2)	— (—)	— (—)	8 (8)	— (—)	5 (5)
		情報科学専攻	15 (15)	2 (2)	— (—)	— (—)	17 (17)	— (—)	7 (7)
概	総合政策研究科	総合政策専攻	38 (38)	8 (8)	— (—)	— (—)	46 (46)	— (—)	2 (2)
	言語コミュニケーション文化 研究科	言語コミュニケーション文化 専攻	20 (20)	13 (13)	— (—)	— (—)	33 (33)	— (—)	12 (12)
要	計		277 (277)	60 (60)	2 (2)	0 (0)	339 (339)	0 (0)	167 (167)
	博士課程前期課程 合計		292 (291)	67 (66)	2 (2)	0 (0)	361 (359)	0 (0)	169 (170)

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員		
			教授	准教授	講師	助教	計		助手	
組	既	関西学院大学大学院 博士課程後期課程		人	人	人	人	人	人	
		神学研究科	神学専攻	7 (7)	4 (4)	— (—)	— (—)	11 (11)	— (—)	— (—)
	設	文学研究科	文化歴史学専攻	25 (25)	3 (3)	— (—)	— (—)	28 (28)	— (—)	— (—)
			総合心理学専攻	10 (12)	2 (2)	— (—)	— (—)	12 (14)	— (—)	— (—)
			文学言語学専攻	23 (24)	5 (5)	1 (1)	— (—)	29 (30)	— (—)	— (—)
	社会学研究科	社会学専攻	12 (12)	— (—)	— (—)	— (—)	12 (12)	— (—)	7 (7)	
	設	法学研究科	政治学専攻	16 (16)	— (—)	— (—)	— (—)	16 (16)	— (—)	— (—)
			基礎法学専攻	7 (7)	— (—)	— (—)	— (—)	7 (7)	— (—)	3 (3)
			民刑事法学専攻	17 (17)	— (—)	— (—)	— (—)	17 (17)	— (—)	3 (3)
	経済学研究科	経済学専攻	29 (29)	5 (5)	— (—)	— (—)	34 (34)	— (—)	2 (2)	
	商学研究科	商学専攻	23 (23)	10 (10)	— (—)	— (—)	33 (33)	— (—)	1 (1)	
	設	理工学研究科	物理学専攻	14 (14)	4 (4)	— (—)	— (—)	18 (18)	— (—)	— (—)
			化学専攻	8 (8)	2 (2)	2 (2)	— (—)	12 (12)	— (—)	— (—)
			生命科学専攻	6 (6)	2 (2)	— (—)	— (—)	8 (8)	— (—)	— (—)
			情報科学専攻	15 (15)	2 (2)	— (—)	— (—)	17 (17)	— (—)	— (—)
	総合政策研究科	総合政策専攻	22 (22)	— (—)	— (—)	— (—)	22 (22)	— (—)	— (—)	
	分	言語コミュニケーション文化 研究科	言語コミュニケーション文化 専攻	20 (20)	13 (13)	— (—)	— (—)	33 (33)	— (—)	— (—)
			計	254 (257)	52 (52)	3 (3)	0 (0)	309 (312)	0 (0)	16 (16)
	概	博士課程後期課程 合計		261 (263)	52 (52)	3 (3)	0 (0)	316 (318)	0 (0)	16 (17)
		設	関西学院大学大学院 専門職学位課程		人	人	人	人	人	人
分	経営戦略研究科		法務専攻	28 (28)	5 (5)	1 (1)	— (—)	34 (34)	— (—)	29 (29)
		経営戦略専攻	12 (12)	7 (7)	1 (1)	— (—)	20 (20)	— (—)	27 (27)	
		会計専門職専攻	18 (18)	4 (4)	— (—)	— (—)	22 (22)	— (—)	24 (24)	
専門職学位課程 合計		58 (58)	16 (16)	2 (2)	0 (0)	76 (76)	0 (0)	80 (80)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		301 人 (301)	255 人 (255)	556 人 (556)				
	技 術 職 員		11 (11)	— (—)	11 (11)				
	図 書 館 専 門 職 員		30 (30)	12 (12)	42 (42)				
	そ の 他 の 職 員		10 (11)	15 (15)	25 (26)				
	計		352 (353)	282 (282)	634 (635)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	247,859 m ²	—m ²	—m ²	247,859 m ²				
	運 動 場 用 地	285,598 m ²	—m ²	—m ²	285,598 m ²				
	小 計	533,457 m ²	—m ²	—m ²	533,457 m ²				
	そ の 他	—m ²	—m ²	—m ²	0 m ²				
	合 計	533,457 m ²	0 m ²	0 m ²	533,457 m ²				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	203,690 m ² (203,690 m ²)	—m ² (—m ²)	—m ² (—m ²)	203,690 m ² (203,690 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	室	室	室	室 (補助職員 人)	室 (補助職員 人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数	室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
		()	()	()	()	()	()		
	計	()	()	()	()	()	()		
図書館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費・設備購入費の開設前年度に関しては学部含む。
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	1,298千円	1,292千円	図書購入費	12,000千円	9,703千円	10,471千円	
	共 同 研 究 費 等	9,200千円	10,120千円	設備購入費	411,626千円	6,161千円	6,743千円		
	学生 1 人 当 り 納 付 金 (前期課程)	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		1,040千円	810 千円	千円	千円	千円	千円		
	学生 1 人 当 り 納 付 金 (後期課程)	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
1,040千円		810 千円	810千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、寄付金収入、補助金収入、資産運用収入、資産売却収入を充当する。						

大 学 の 名 称	関 西 学 院 大 学							所 在 地		
	学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	入 学 定 員	取 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 週 開 年 度			
既 設 大 学 等 の 状 況	神学部	4	30	—	120	学 士 (神 学)	1.03	昭和27年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	H16.4大学全体の 収容定員増
	文学部								同上	
	文化歴史学科	4	275	—	1,100	学 士 (文 学)	1.01	平成15年	同上	
	総合心理科学科	4	175	—	700	学 士 (文 学)	0.96	平成15年	同上	
	文学言語学科	4	320	—	1,280	学 士 (文 学)	1.04	平成15年	同上	
	社会学部								同上	
	社会学科	4	475	—	1,900	学 士 (社 会 学)	1.05	昭和35年	同上	
	社会福祉学科	4	175	10	720	学 士 (社 会 福 祉 学)	1.05	平成11年	同上	
	法学部								同上	
	法律学科	4	510	—	2,040	学 士 (法 学)	1.01	昭和23年	同上	
	政治学科	4	140	—	560	学 士 (法 学)	1.02	昭和23年	同上	
	経済学部	4	650	—	2,600	学 士 (経 済 学)	1.06	昭和23年	同上	
	商学部	4	650	—	2,600	学 士 (商 学)	1.07	昭和26年	同上	
	理工学部								同上	
	物理学	4	75	—	300	学 士 (理 学)	1.01	昭和36年	兵庫県三田市 学園2丁目1番 地	
	物理学専攻	4	35	—	140	学 士 (理 学)	1.14			
	数学専攻	4	75	—	300	学 士 (理 学)	0.90	昭和36年		
	化学科	4	50	—	200	学 士 (生 命 科 学)	0.92	平成14年		
	生命科学科	4	125	—	500	学 士 (情 報 科 学)	1.00	平成14年		
	情報科学科	4	360	50	1,540	学 士 (総 合 政 策)	1.05	平成7年	同上	
総合政策学部								同上		
総合政策学科	4	120	—	480	学 士 (メ デ ィ ア 情 報)	1.06	平成14年	同上		
メディア情報学科	4							同上		
博士課程 前期課程								兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	H19.4 研究科 再編	
神学研究科 神学専攻	2	10	—	20	修 士 (神 学)	1.00	昭和27年	同上		
文学研究科 文化歴史学専攻	2	22	—	22	修 士 (哲 学) 修 士 (美 学) 修 士 (芸 術 学) 修 士 (歴 史 学) 修 士 (地 理 学)	0.86	平成19年	同上		
総合心理科学専攻	2	20	—	20	修 士 (心 理 学) 修 士 (教 育 心 理 学) 修 士 (教 育 学) 修 士 (学 校 教 育 学)	0.85	平成19年	同上		
文学言語学専攻	2	22	—	22	修 士 (文 学) 修 士 (言 語 学)	0.54	平成19年	同上		
社会学研究科 社会学専攻	2	12	—	24	修 士 (社 会 学)	0.62	昭和36年	同上		
社会学研究科 社会福祉学専攻	2	6	—	12	修 士 (社 会 福 祉 学)	1.08	昭和36年	同上		
法学研究科 法学・政治学専攻	2	45	—	90	修 士 (法 学)	0.26	平成16年	同上		
経済学研究科 経済学専攻	2	30	—	60	修 士 (経 済 学)	0.54	昭和25年	同上		

大学の名称		関西学院大学									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入定員	入学生数	収容定員	学位又は称号	定員増減率	開年	設年度	所在地	
商学研究科 商学専攻	2	30	—	—	60	修士(商学) 修士(経営学) 修士(会計学) 修士(マーケティング) 修士(ファイナンス) 修士(ビジネス情報) 修士(国際ビジネス)	0.61	昭和28年		兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	
理工学研究科 物理学専攻	2	25	—	—	50	修士(理学) 修士(工学)	1.04	昭和40年		兵庫県三田市 学園2丁目1番 地	H18.4収容定員増
化学専攻	2	33	—	—	66	修士(理学) 修士(工学) 修士(国際自然科学)	0.81	昭和40年			
生命科学専攻	2	20	—	—	40	修士(理学) 修士(工学)	1.17	平成16年			
情報科学専攻	2	45	—	—	90	修士(理学) 修士(工学)	1.20	平成18年			H18.4専攻設置
総合政策研究科 総合政策専攻	2	50	—	—	100	修士(総合政策) 修士(メディア情報) 修士(国際開発戦略)	0.42	平成11年		同上	
言語コミュニケーション文化研究科 言語コミュニケーション文化専攻	2	30	—	—	60	修士(言語科学) 修士(言語文化学) 修士(言語教育学) 修士(日本語教育学)	0.81	平成13年		兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	
博士課程 後期課程										同上	
神学研究科 神学専攻	3	2	—	—	6	博士(神学)	1.00	昭和29年		同上	
文学研究科 文化歴史学専攻	3	7	—	—	7	博士(哲学) 博士(美学) 博士(芸術学) 博士(歴史学) 博士(地理学)	1.00	平成19年		同上	H19.4 研究科 再編
総合心理学専攻	3	6	—	—	6	博士(心理学) 博士(教育心理学)	1.16	平成19年			
文学言語学専攻	3	7	—	—	7	博士(文学) 博士(言語学)	1.14	平成19年			
社会学研究科 社会学専攻	3	4	—	—	12	博士(社会学)	1.08	昭和36年		同上	H17.4収容定員 増
社会学研究科 社会福祉学専攻	3	4	—	—	12	博士(社会福祉学)	1.16	昭和53年		同上	
法学研究科 政治学専攻	3	2	—	—	6	博士(法学)	0.33	昭和34年		同上	
法学研究科 基礎法学専攻	3	2	—	—	6	博士(法学)	0.00	昭和29年		同上	
法学研究科 民刑事法学専攻	3	2	—	—	6	博士(法学)	1.16	昭和38年		同上	
経済学研究科 経済学専攻	3	3	—	—	9	博士(経済学)	1.22	昭和29年		同上	
商学研究科 商学専攻	3	10	—	—	30	博士(商学)	0.16	昭和36年		同上	H17.4収容定員増
理工学研究科 物理学専攻	3	5	—	—	15	博士(理学) 博士(工学)	0.26	昭和42年		兵庫県三田市 学園2丁目1番 地	H18.4収容定員増
化学専攻	3	6	—	—	17	博士(理学) 博士(工学)	0.86	昭和42年			
生命科学専攻	3	5	—	—	10	博士(理学) 博士(工学)	0.40	平成18年			H18.4課程設置
情報科学専攻	3	3	—	—	6	博士(理学) 博士(工学)	1.00	平成18年			H18.4専攻設置
総合政策研究科 総合政策専攻	3	5	—	—	15	博士(総合政策)	0.53	平成13年		同上	
言語コミュニケーション文化研究科 言語コミュニケーション文化専攻	3	3	—	—	9	博士(言語コミュニケー ション文化)	0.77	平成15年		兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	

既設大学等の状況	大学の名称	関西学院大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	入籍定員	取容定員	学位又は称号	定員増減	開年度	所在地
既設大学等の状況	専門職学位課程 司法研究科 法務専攻	3年	125人	—	375人	法務博士（専門職）	1.07倍	平成16年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号
	経営戦略研究科 経営戦略専攻	2年	100人	—	200人	経営管理修士（専門職）	0.64倍	平成17年	大阪府大阪市 北区茶屋町19 番19号7フ ーズタワー14階
	会計専門職専攻	2年	100人	—	200人	会計修士（専門職）	0.89倍	平成17年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号
附属施設の概要		該当無し							

既存学部から移籍した教員数について

人間福祉研究科人間福祉専攻

博士課程前期課程

社会学研究科社会福祉学専攻（M）から 4（うち教授 4）人移籍

博士課程後期課程

社会学研究科社会福祉学専攻（D）から 3（うち教授 3）人移籍

学校法人 関西学院 建設計画 スケジュール

2007年4月1日 現在

	07年			08年			09年			10年			11年			12年					
	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	
西宮上ヶ原キャンパス	G号館新築工事			建設工事中																	
	初等部新設工事			建設工事中																	
	高中部改築工事						計画・申請														
	硬式テニスコート・ サッカー場移転																				
	第2フィールド改修工事																				
神戸三田キャンパス	共用棟新設工事																				
	理工学部棟増築工事																				
	既存各棟改修工事																				

様式第2号（その2）

教 育 課 程 等 の 概 要

（人間福祉研究科 人間福祉専攻 博士課程前期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	人間福祉研究	1・2	4			○			4					
	人間福祉文献研究（英語）	1・2	2			○								
	小計（2科目）	—	6	0	0	—			4	0	0	0	0	
専門選択科目	社会福祉学理論研究	1・2		2		○								
	社会福祉思想史研究	1・2		2		○			1					
	高齢者福祉研究	1・2		2		○								
	子ども家庭福祉研究	1・2		2		○			1					
	障害者福祉研究	1・2		2		○			1					
	保健医療福祉研究	1・2		2		○			1					
	ソーシャルワーク実践研究	1・2		2		○				1				
	福祉行財政研究	1・2		2		○			1					
	福祉情報研究	1・2		2		○			1					
	福祉国家研究	1・2		2		○					1			
	国際福祉研究	1・2		2		○						1		
	健康科学研究	1・2		2		○			1					
	身体運動科学研究	1・2		2		○			1					
	死生学研究	1・2		2		○			1	1				
	社会福祉量的調査法	1・2		2		○			1					
	社会福祉質的調査法	1・2		2		○								
小計（16科目）	—	0	32	0	—			10	3	0	0	0		
実習・実務科目	アドバンスト・フィールドワーク	1・2		4				○		1				
	小計（1科目）	—	0	4	0	—			0	1	0	0	0	
研究演習	研究演習	1・2	4				○		15	7				
	小計（1科目）	—	4	0	0	—			15	7	0	0	0	
合計（20科目）		—	10	36	0	—			15	7	0	0	0	
学位又は称号	修士（人間福祉）		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
専門基礎科目6単位、専門選択科目及び実習実務科目20単位、研究演習8単位を修得し、修士学位論文の審査に合格すること。							1 学年の学期区分		2 期					
							1 学期の授業期間		15 週					
							1 時限の授業時間		90 分					

様式第2号（その2）

教育課程等の概要														
(人間福祉研究科 人間福祉専攻 博士課程後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
文献研究	人間福祉文献研究講読（英語）	1・2・3	2			○								
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	
研究演習	研究演習	1・2・3	4				○		7					
	小計（1科目）	—	4	0	0	—			7	0	0	0	0	
合計（2科目）		—	6	0	0	—			7	0	0	0	0	
学位又は称号	博士（人間福祉）			学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
文献研究2単位、研究演習12単位を修得し、博士学位論文の審査に合格すること。							1 学年の学期区分				2 期			
							1 学期の授業期間				15 週			
							1 時限の授業時間				90 分			

授 業 科 目 の 概 要			
(人間福祉研究科人間福祉専攻博士課程前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	人間福祉研究	<p>この科目は人間福祉研究科の核となるものであり、人間福祉という分野について、その基本となる研究方法や学問領域について研究していく。具体的には「人間福祉とは何か」、それを研究していくときの学問方法は、そしてその歴史、分野は如何なるものであるか、「人間」、「社会（環境）」そして「その関係」についての基本的視座、政策、現状分析や課題等を4人がオムニバス形式で講義し、研究を深めていくことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(室田 保夫／8回) 本講義では人間福祉に関わる歴史的視点を中心に講義していく。なにごとの学問においても歴史的展開、あるいは歴史的視点はその基本となるものである。人間福祉と関連深い社会福祉学が積み上げてきた理論や思想の歴史を中心にみていきながら、人間福祉の基本的原理や視点を学んでいく。人間とは何か、福祉とは何か、人類の幸福（不幸）とは何か、といった福祉哲学や価値の問題とも関連する領域であり、具体的には近代日本を中心にみていく。</p> <p>(芝野 松次郎／7回) 人間福祉のうち、人と環境の交互作用における専門的なかかわりについての基本を研究するための基礎知識を提供する。人のニーズと制度としての環境の間に展開する交互作用を「社会関係」として捉えたのは岡村理論であるが、そうした視点から交互作用において生じる問題に対する専門的な援助に関する基本理念を整理する。そして、それと人間福祉研究との関係を、歴史的変遷を踏まえながら示し、今日的な課題を研究する。</p> <p>(牧里 毎治／8回) 人間福祉にかかわる制度および環境要因について基本的知識の提供とヒューマンイズムの観点から人間福祉にかかわる論点の再検討をおこなう。いわゆるヒューマン・セキュリティ（人間であることの保障）を人権視点から考察するとともに、ヒューマンサービスといわれる社会施策がどのように形成されてきたのか、その政策原理について講義する。さらに、なぜ福祉国家が地方分権として保健福祉サービスの地域計画を推進せざるをえなくなってきたのか、今後の福祉社会の制度設計も含めてその社会的背景についても論及する。</p> <p>(中塘 二三生／7回) 学際分野である人間福祉研究科で学ぶために必要となる、本研究のなかで、人間分野についての部分を担当・教授する。特に福祉分野との関連性を重視しながら、生理学、衛生学、公衆衛生学、体育学の諸分野を基礎とした健康科学領域を中心的課題として設定する。担当者がこれまで実証してきた現場における健康度把握の為に必要な理論的背景、実際の測定、得られたデータの検証等、時に実験・測定をまじえながら実践的かつ有効性が高い授業展開をおこなっていく。</p>	オムニバス
	人間福祉文献研究（英語）	<p>ソーシャルワークや福祉政策に関する英文献をレビューする力の習得を目的としている。修士論文を作成する際に、海外の関連文献をレビューすることは不可欠である。そのため、前半では英文の文献になじんでもらうために、受講生は共通の英文献を読む。後半は、受講生各自が自分の研究に関連する英文献を探し出し、報告する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間福祉研究科人間福祉専攻博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	社会福祉学理論研究	本講義は現代社会福祉学が目指してきた科学化、理論化、技術化、専門職化、定着化等の方向を論理的に裏付ける理論研究を行い、その構造を明確にするために①対象の設定、②視点の明確化、③理念・価値の具象化、④研究の方式、⑤研究活動の手法、⑥評価と省察など研究方法論のあり方を検討・吟味する。さらに既存の諸学説を批判的に分析し、①科学的研究方法、②実践の科学化、③利用者ニーズの論理化、④独自科学を目指す融合化の試みなど新たな社会福祉学成立の可能性についても論及する。	
	社会福祉思想史研究	本講義は近代日本における社会福祉思想史についての講義である。そのためには明治以降の社会福祉の歴史の中で、如何なる人物によって如何なる実践、そして思想が産み出されてきたか、ということを理解していく。日本の場合は往々に外国、とりわけ西洋から多くの思想が紹介された。しかしそれを実践していくとき、日本文化、あるいは伝統、政治等といったものに制約される。思想史と関連深い理論史や実践史といった分野も視野に入れていく。	
	高齢者福祉研究	高齢期の身体的、精神的加齢変化に伴って生じる生活課題に対処する高齢者福祉の現状と課題について研究する。具体的なテーマは、1.人口高齢化、2.家族形態と機能の変化、3.高齢期のQOL、4.在宅・施設福祉サービス、5.社会参加促進対策、6.高齢者を対象とする福祉援助技術、7.福祉先進国の高齢者福祉、8.高齢者関係法等について研究する。	
	子ども家庭福祉研究	子ども虐待や子育て不安、ドメスティック・バイオレンス、いじめ、不登校など、子どもや家庭をめぐる状況が深刻化する中、国や自治体などによって様々な施策が推進されている。にもかかわらず、これらの問題は厳しさを増す一方であり、解決の兆しすら見えない。本研究では、虐待問題を中心に、これがどのような社会的背景の中で深刻化してきているのか、またこれに対してどのような施策が講じられ、どのような課題を抱えているのかを最新の研究知見を踏まえながら実証的に分析するとともに、効果的な施策のあり方について考察する。	
	障害者福祉研究	本講義では「障害者福祉」を「障害に関わる社会的支援」として幅広く定義した上で、その政策・制度・実践について内外の歴史を概括した上で、介護保険をはじめ、日本における現状と課題を分析する。分析の視点として、利用者視点とともに、「障害」を幅広くとらえる「マイノリティ視点」を重視する障害学の視点をを用いる。ソーシャルワーク実践についても、障害者個人を対象としたものだけでなく、社会啓発的実践もとりあげる。	
	保健医療福祉研究	医療制度の急速な変化の中で、保健医療分野のソーシャルワークの存在意義、役割については、多様な視点から把握が可能である。本研究では、複数の保健医療領域におけるソーシャルワークについて、生活障害支援、組織と地域連携、包括医療実践、アドヴォカシー等、ミクロ、メゾ、マクロの視点からその内容を精査し、今後のあり方とその研究方法について考察する。また医療の質に関連させた保健医療福祉の評価のあり方についても視野に入れて議論する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間福祉研究科人間福祉専攻博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	ソーシャルワーク実践研究	本講義は、現代日本社会におけるソーシャルワーク実践について（特にマイクロ・メソッド、臨床ソーシャルワークに重点を置いて）深い理解と実践応用性を獲得するために開講される。代表的な実践理論について、対象範囲 (horizon of framework)、理論的前提 (theoretical assumption)、そして知識体系 (body of knowledge) といった側面に注目し、その有益性と限界について議論していく。さらに、各実践理論が日本のソーシャルワーク領域で実践応用されるための条件や環境についても掘り下げていく。	
	福祉行財政研究	福祉行財政について、国と地方の福祉政策、政府間関係、地方自治、福祉の公私関係、ローカルガバナンスの視点からアプローチする。特に自治体福祉を中核として、NPO、コミュニティグループ等を包括するローカルガバナンスのありようを考察する。到達目標としては、国家の視点および国際比較の視点から福祉行財政の背景にある政治経済を理解し、それを踏まえたうえで施設ケアや在宅ケアに関連するマネジメントの技術的側面を修得する。	
	福祉情報研究	福祉・介護の展開を図るうえで情報の活用が必須となっているが、その理念的な枠組みの構築や方法・技術の体系化は未だ十分ではない。この科目では、国や地方自治体における課題として情報提供や情報開示、情報システムなど、福祉・介護実践における課題として記録のあり方や情報共有、情報発信、情報システム、インターネットの活用など、その他、福祉・介護に関わる資料・情報の入手や活用・評価などを含め、受講生の課題や問題意識を踏まえながら、福祉・介護分野における情報活用のあり方について具体的に考察し、その体系化にむけた研究を進める。	
	福祉国家研究	アメリカに見られるような市場主義的な社会経済システムを重視する考え方に対して、ヨーロッパ、特に北欧を中心とする福祉国家型の社会経済システムがある。わが国では国民負担率が高いことが経済運営のマイナスであるとの考えが定着しているが、福祉国家では税負担や社会保障への国民の受け止め方も違っており、国民の合意によって高負担を受け入れる姿勢も有力である。特に税負担においては、ヨーロッパでは付加価値税が中心であるが、その負担が逆進的であることがさほど問題にならないのは、福祉的給付によって安心・安全が守られているからだという国民の理解があるからだと言われる。本講義では、そのような北欧型の社会経済システムや、国民負担のあり方について、小さな政府を志向する国との対比において比較検討する。	
	国際福祉研究	当初は経済的な色彩が濃かった国際協力だが、次第に社会開発、社会福祉なども視野におくようになっていく。現在では、貧困の解決を「基本的な人権」と位置づけ、その実現を各国の政府や国際社会の責務と考える「人権に基づく開発協力アプローチ」が国連で採用され、国際協力が国境を越えた社会福祉であるという視点が強まっている。この授業では、国際機関、二国間援助機関、NGOによる国際協力の課題を具体的な事例から検討しつつ、今後の協力のあり方について考える。	
	健康科学研究	健康の概念として身体的、精神的、社会的、さらにスピリチュアルな側面があることを十分に理解させ、主として身体的な健康に関して、卒後社会において教育者・研究者として自立して活動できるように、科学的な思考基盤を形成する事を目的とする。疾病やスポーツによる健康障害等に対する基礎的な知識の習得に留まらず、科学的なアプローチ、問題提起、及び解決方法を自らが開発できるように、ディベート方式を取り入れながら講義を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間福祉研究科人間福祉専攻博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	身体運動科学研究	生物の基本は動くことであり、骨組織や植物など一見動きがない生物でも微視的には動いている。身体運動科学研究は生物の基本であるこの動きを科学的に捉え講義、測定、実験のかたちで教授する。非常に学際色の強い分野であるが、授業の流れはまず生物学、生理学、物理学、化学等の基礎分野に対する知識を正確に学ぶ段階を経る。その後、応用分野である運動生理学、バイオメカニクス等の現場に直接応用可能な分野を学ぶこととする	
	死生学研究	死生学についての基本的理論を概観する。その上で、どのようなリサーチがなされているか最新の論文を読み議論する。理論的理解を深めるために、死生学を支える哲学、宗教学、倫理学、法学、医学、看護学、福祉学、文化人類学などの理論を学び、人の生と死について語る理論的根拠を学ぶ。また、最新のリサーチから、現在何が明らかになり、何が明らかになっていないかについて議論する。受講生は、各自のテーマについて、その理論を整理し、調査の課題についてプレゼンテーションすることが求められる。 (オムニバス方式／全15回) (藤井 美和／8回) 死生学は人の生と死に関わる課題についてさまざまな学問を援用する学問である。そのため、まず死生学を支える学問分野を理解することを目的とする。どのような理論が、人の生と死を語る際の理論的根拠を形作っているのか、またどのようなモデルが、人の生と死に関わる課題に援用できるのかについて学ぶ。学生は各自のテーマを理解するための理論についてレビューし分析する。 (エルス マリー アンベッケン／7回) 具体的な理論やモデルを通して、実際に行われている最新の調査をレビューする。調査論文から、何が明らかになっているのか、何が課題として残されているのかについて分析する。特に、現場でのケアの質、プログラム評価などに焦点を当て、リサーチクエスチョンとそれに応じた調査方法の違いについても議論する。学生は各自のテーマにおいてなされている最新の調査についてレビューし分析する。	
	社会福祉量的調査法	本講義は、社会福祉分野で必要とされている量的調査の基礎知識を学ぶと共に、量的調査のデータ収集方法、データ入力、データ解析などの実践的な知識や技法を養うことを目的とする。具体的には、前半に量的調査のデザインの設定の仕方、質問紙作成、サンプリング及びデータ収集について具体的に学び、後半は、データ入力、データクリーニング、システムファイルの作成などを実際に体験し、その後、統計解析ソフトSPSSを用いて、クロス集計、一元配置の分散分析、相関分析などの2変数間の分析、さらに、因子分析、重回帰分析(ロジスティック回帰分析を含む)、分散分析などの多変量解析を実際に行い、データ解析の基礎的な知識や分析方法を学ぶ。	

様式第2号（その3）

授 業 科 目 の 概 要			
(人間福祉研究科人間福祉専攻博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 選択 科目	社会福祉質的調査法	この授業は、社会福祉学における質的調査法の基礎知識の習得を目的としている。具体的には、質的調査法の特徴や目的、社会福祉調査における質的調査の意義を踏まえた上で、質的調査法の代表的なアプローチについて理解する。さらに、研究デザインの立て方、フィールドへの入り方、質的データの収集法と分析法、調査者と調査協力者との関係、質的調査における倫理的問題などに関して、講義と部分的な演習を交えながら、授業を進める。	
実習 ・ 実務 科目	アドバンスト・フィールドワーク	各自の専門領域および研究対象に従い、社会福祉施設、公的機関、医療機関、NPO、NGO、スポーツ科学施設などにおける高度な援助技術や研究方法の習得、ならびに質的・量的調査を目的とした現地調査といったフィールドワークを実施する。将来、研究者あるいは実践者として理論モデルと実証領域を適切な方法と枠組みで連関できる能力を養う。	
研究 演習	研究演習	社会福祉学、社会学、経済学、健康科学などの観点から人間福祉研究へのアプローチを試みる。修士論文作成を念頭に置き、論文執筆における基本的ルールを確認するとともに原典の解説、先行研究の調査、問題設定、調査技法など、学術的に優れた論文完成への道筋を示す。研究発表や討論などを通じて、参加者が新たな研究視点のもとで斬新な研究分野へ飛躍することを期待する。	

様式第2号（その3）

授 業 科 目 の 概 要			
(人間福祉学研究科人間福祉専攻博士課程後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
文 献 研 究	人間福祉文献研究講読 (英語)	博士論文作成に必要なソーシャルワークや福祉政策、各自の研究テーマに関する英文献をレビューする力の習得を目的にしている。受講生各自が自分の研究に関連する英文献を探し出し、報告する。	
研 究 演 習	研究演習	修士論文など前期課程で達成した研究成果をもとに、博士論文作成を目標とした研究指導を行う。当該分野に関する研究史の展望や、研究目的、課題と方法などの検討を進める。後期課程博士学位取得プロセス<モデル>に沿いつつ、個人の研究発表や発表を巡る討論など、ゼミナール形式を通じて学生の主体的な取り組みを導いてゆく。	